

第1号様式

市民との意見交換会・報告書

開催地区：大戸地区	開催日時：令和6年11月13日（水） 18時00分 ～ 19時30分
担当班：第3班（出席議員）丸山さよ子、渡部認、中川廣文、高橋義人（欠席議員）村澤智	
開催場所：大戸公民館	
参加人数：男性 6名、女性 0名、合計 6名（ほか、大戸公民館長1名 傍聴）	
会場の雰囲気、次回に向けての反省点、申し送り事項など 1. 意見交換の総括 (1) 議会報告、市政全般についての総括 ① 9月定例会議について 面的除雪の取組やメリットなどについて質疑があった。また、大戸小学校、中学校が小規模特認校になったことで、地区外から通う児童生徒への通学援助の考え方等について質疑があった。 ② 市政全般（市のまちづくりに向けた課題）について 人口減少が進むことで、学校行事や地域の行事に参加できる人が少なくなっているとの意見や、定年年齢が引き上げられたことで、区長をはじめ、地域の役員の担い手を見つけることも難しくなっている現状について、意見が出された。 (2) 地区別テーマについての総括 ① 地区別テーマ 地域のつながりづくりについて ② テーマ設定の理由、背景 少子高齢化による地域の担い手不足はどの地域も共通した課題であり、また、自主防災意識の向上と合わせ、災害リスクの知識の共有による地域のつながりづくりも深掘したいとの考えにより、テーマを設定した。 ③ 主な地域課題 人口減少が進み、学校行事や地域の行事に参加できる人が少なくなっている。区長をはじめ地域の役員の担い手を見つけることも難しくなっているため、大戸のまちづくり協議会の取組が重要になってきている。	

会津若松市議会議員 様

令和6年12月17日

会津若松市議会市民との意見交換会実施要領第2項第11号の規定により提出します。

予算決算委員会委員長 大竹 俊哉

意見交換会第3班 代表者 丸山 さよ子

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
面的除雪とはどのような内容で、どのようなメリットがあるのか。	除雪業者がそれぞれ所持している除雪用重機は異なるため、規格の異なる複数の除雪機械を相互に利用して、除雪作業の効率化を図ることができる。 面的除雪は、複数の業者が区域内の除雪に入り、除雪が滞っている箇所に対し、ほかの業者によるバックアップができるなどの利点がある。除雪と排雪を一括して委託することで、地区の排雪状況を把握して対応できる点も特徴である。	①	○		雪害対策
冬期間に南原から石村までの区間や、あまや駅の先などで、除雪をしない区間があるが、国道118号で事故があると交通渋滞が起きる可能性がある。除雪を希望する道路は農道であるが、冬期間の除雪は検討できないか。 なお、この件は以前から要望として何度か市には伝えてきた。	農道は、農作物の搬出や農業機械の進入路などを目的に整備された道路で、一般交通の道路とは利用条件が異なっている。ご指摘の路線は冬期間の利用を前提としておらず、除雪で舗装にヒビが入り、路面状況が悪化する恐れもあるため、除雪を行っていないことをご理解いただきたい。	②	○		雪害対策
不登校の児童・生徒の増加や、こどもクラブの待機児童が出ていることは大きな問題と考える。この点は強く改善を求める。	現在の不登校の子ども達を対象に、適応指導教室ひまわりやスペシャルサポートルーム等が設置されている。また、民間施設のフリースクールに通う子どもたちもいる。 議会としても、不登校の子どもたちの学びの場を更に充実するため、大きな課題として取り組んでいく。 こどもクラブの待機児童については、放課後児童支援員の確保も大きな課題になっており、待遇などの改善が必要であると考え。引き続き待機児童の解消に向け取り組んでいく。	①	○		学校教育

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
なぜ不登校の児童・生徒数が増えているのか。	病気や経済的理由等以外の理由によって、年間30日以上学校を欠席した状態を不登校としているが、学校を休む理由も多様化しているため、一概に特定の理由を申し上げることはできない。	①	○		学校教育
復帰率とはどういう意味か。休む理由が多様化しているのであれば、そのような定義が本当に必要なのか。	復帰率の定義については、教育委員会に確認して報告書で回答させていただく。 ただ、学校に行くこと、復帰することだけを強調するのではなく、今後も広く子ども達に学びの保証をしていくことが重要であると考えます。	③	○	後日調査し、事後報告する。 (P 7)	学校教育
大戸小・中学校が小規模特認校になってから、大戸地区外から通っている子どもたちもいる。以前の学校では登校できなかった子が通えるようになったと聞いている。丁寧な支援が必要だと思うが、そうすると先生方の負担が大きいのではないのか。 特に、支援を要する子をサポートするために、教育現場に人的な支援をお願いしたい。 また、大戸地区外から通う生徒の交通費が自己負担である状況はおかしい。せめて、一定区間だけでも電車賃の補助はできないか。小規模特認校になって、学校に行けるようになった子を支援してほしい。 私も学校運営協議会のメンバーであるが、通学費の支援などについても学校や教育委員会に何度か話してきた。	大戸地区外から通っている児童・生徒は大戸小学校に6人、中学校に7人おり、電車通学をしている子どもが3人いると把握している。この件は所管委員会でも継続して協議していきたい。	①	○		学校教育
小規模特認校になり、地区外から来る子が増えることで、もともと大戸地区に住んでいる子どもたちに弊害は起きていないのか。	教育委員会からそのような話は伺っていない。学校運営協議会で把握していれば教えてほしい。	①	○		学校教育

○ 議会報告(定例会など)、市政全般(市政・議会運営に関する意見交換)について

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項
 (含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況			※項目 キーワード
		分類	番号	対応	
学校の先生方の負担を減らすためにも、支援員の増員が必要ではないか。	貴重なご意見として受け止める。所管する委員会でもご意見を基に深めていきたい。 特別支援教育支援員は、大戸小・中学校に1名ずつ配置されている現状である。地域の方のボランティア等も、先生方の負担軽減になっていると伺っている。	①	○		学校教育
地域の方が学校活動へのボランティアにも積極的に参加している。それでも支援員の拡充が必要であると感じる。	ご意見として伺う。	②	○		学校教育
現在、少子化が進んでいる。高校を卒業すると多くの子どもが市外に出ていってしまい、地元に戻ってこない。市内に大きな企業があれば、子どもたちも地元で就職し、地元に残ることができると思う。現在、芦ノ牧温泉にある旅館で従業員が不足しているため、毎日営業できないなど、人材不足が大きな問題になっている。議会は人口減少についてどのように考えているのか。	市も議会も、少子化や人口減少は、市が直面している大きな問題であると認識している。 また、若者が地元に残り就職できる環境を目指し、企業誘致や工業団地の整備等の事業を進めていると認識している。 現在、様々な業種で人手不足の状況にある。人口減少対策の観点からは、工業団地への企業誘致だけでなく、様々な分野での人材確保が必要であると考えている。	①	○		少子 高齢化

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域のつながりづくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
	本市のまちづくりの課題等があれば、ご意見をいただきたい。			
人口減少が進むことで、学校や地域の行事に参加できる人が少なくなっている。 また、定年年齢が引き上げられたこともあり、区長をはじめ、地域の役員の担い手を見つけることも難しくなっている。市でもIターンやUターン移住者に様々な支援を行っていると思うが、市内には娯楽施設も少なく、買い物をする場所も限られている。 「住みたい」と思ってもらえる施策が必要ではないか。	若者の移住定住のための施策については、市や国でも予算化しており、市でも様々な施策をしているが、貴重なご意見として今後の参考にさせていただきたい。	①	○	
	大戸地区のすべての町内会で自主防災組織がつくられたことで、良くなったことや課題などについて教えていただきたい。自主防災組織として日ごろどのような活動をされているか教えていただきたい。			
設立して今年で2年目になる。設立時に補助金をもらったが、今後も自主防災組織が活動していくためには補助金が重要である。	ご意見として伺う。	②	○	
日本赤十字社から講師を呼んでAEDの使い方の講習を受けたことがある。講習などがあると、地区の中で防災について考え、共有するよい機会になる。 また、防災マップを活用して、地域のなかで危険な箇所などの認識を共有できたり、日赤と消防団で話し合う機会ができた。ハザードマップを活用して、防災訓練を行うこともできてよかった。	ご意見として伺う。	②	○	

○ 地区別テーマでの意見交換について → 地域のつながりづくりについて

※分類 ●議会に関するもの ○市政に関するもの
 ※番号 ①回答(処理)済 ②ご意見として伺った事項(含む情報提供) ③後日回答

市民の発言内容	議会（議員）の発言内容	処理状況		
		分類	番号	対応
都市部では近年、強盗事件が多発している。大戸地区でも空き家の増加に伴い、空き巣や泥棒事件も起きている。夜間のパトロールを増やしてほしい。	地元の駐在所へ相談してみるのも一つではないか。	①	○	

市民との意見交換会・事後処理報告書

大戸 地区

件名	処理（対応）内容	備考
1. 復帰率の定義について (P 3)	【市民からの要望・質問】 復帰率とはどういう意味か。休む理由が多様化しているのであれば、そのような定義が本当に必要なのか。 【事後処理結果】 12月16日に教育委員会に確認。 復帰率とは、不登校児童・生徒の総数に対して、復帰傾向にある児童・生徒の占める割合のこと。復帰傾向にある児童・生徒とは、1年間の指導結果を対象として、文部科学省が示す事例を参考に、各学校が個々の児童・生徒の状況に応じて、継続的に登校できるようになったと認めた児童・生徒数のこと。 (文部科学省の例示) ・1学期中は全く登校できなかったが、教育支援センターでの支援を受ける中で、特定の教科の学習に興味を持てるようになり、3学期には、興味がある教科の授業がある日は登校できるようになった。 ・2学期の前半までは月に1回程度しか登校できなかった中学3年生の生徒が、担任教諭が家庭訪問を繰り返す中で将来の進路などを自ら考えるようになり、その後、週に1回程度は登校するようになった。	

会津若松市議会議長 様

令和6年12月17日

予算決算委員会委員長 大竹 俊哉

意見交換会第3班 代表者 丸山さよ子